

富山大学 学園ニュース

No.98

特集「富山大学に期待する」



学園ニュース

No.98 CONTENTS

富山大学を卒業・修了する諸君へ

学生部長 能登谷 久 公 … 2

特集「一富山大学に期待する」

外国語教育の環境に期待する	東京都立大学人文学部独文専攻 助教授 保 阪 靖 人 … 3
学部を越えた友達づくりを	富山市立豊田小学校教諭 高 地 修 … 4
自信をもって国際化時代を生きるために	北村労務会計事務所 税理士 北 村 彰 英 … 5
これから社会に出る皆さんへ	YKK金属材料研究所 竹 田 英 樹 … 6
社会で望まれている大学生	富山県環境科学センター 鳥 山 成 一 … 7

退官教官雑感

退官教官雑感	工学部知能情報工学科 教授 中 山 剛 … 8
--------	-------------------------

わたしの研究室

わたしのコース紹介	人文学部フランス言語文化コース一同 … 9
地域の自然と社会に学ぶゼミ	教育学部地理学研究室 教育学部小学校教員養成課程社会科専攻地理学ゼミ3年 小 山 裕 一 … 10
わたしのゼミ紹介	経済学部経営法学科4年 浅 野 隆 … 11
大気から地球深部までの地球変動の研究	理学部地球科学地球ダイナミクス講座修士課程2年 中 川 靖 浩 … 12
工学部黒田研究室の紹介	工学部物質生命システム工学科 応用化学②講座一同 … 13

留学生コーナー

ドイツに留学して	教育学部小学校教員養成課程数学専攻4年 西 田 文 枝 … 14
留学生活から学んだこと	教育学部小学校教員養成課程理科専攻4年 吉 田 真 紀 … 16
留学生と冬の火祭り	留学生指導相談室 山ノ下 久美子 … 18

トピックス

富山大学陸上競技部 県の強化指定チームに選ばれる	教育学部教授 山 地 啓 司 … 19
附属図書館新コーナー紹介	附属図書館 … 20

学生部だより

平成11年度の就職・採用活動	21
平成10年度前期・後期授業料免除実施状況	22
証明書自動発行システム導入	22
留学生センター・留学生課新設	23

保健管理センターだより

本当に大切なものは	保健管理センター所長 中 村 剛 … 24
-----------	-----------------------

キャンパスウォッチング

人文学部新校舎紹介	人文学部・理学部 事務長 中 田 孜 … 26
国際交流会館紹介	学生部学生課留学生係長 大 崎 秀 雄 … 28



富山大学を卒業・修了する諸君へ

学生部長 能登谷 久 公

蛍雪の功成って富山大学を卒業・修了される諸君ならびにご家族の皆さんへ心から御慶び申し上げます。諸君の多くは志を抱いて本学に入学されたものと信じておりますが、いま振り返って諸君の自己実現へ向けての努力とその成果はいかがでありますでしょうか。

諸君が入学するしばらく前から始まった政治体制の混乱、いわゆる55体制の崩壊の結果、政党の離合集散は日常的に行われ、政治体制は依然として収束する兆しを見せておりません。

また、日本型経済システムの破綻の結果として、外圧によって胎動を始めた金融ビッグバンは、大手都市銀行すらその体力を問われて、各種金融機関の統合整理が始まっております。

私達日本人はしばらくの間、未曾有のバブルに踊らされました。

日本は本来の形として、原材料を輸入してこれに加工を施し、付加価値を与えて商品として国の内外に提供することで成立ってきたと云えます。しかし、バブルの時期には堅実に産業生産に取り組むことがおろそかにされ、すべてのものが投機の対象とされ、金融機関の多くは金が金を生むマネーゲームに走ったと云われております。

地価の暴騰を恐れた政府による金融機関の貸出し総量規制は、経済的指数の右肩上がりを抑制する事になりました。その結果、地価は一応の安定を示すようになりましたが、値上がりを予測して必要以上の融資を行ってきた金融機関は大きな不良債券を抱えることになりました。

それ以後、金融機関は債券の不良化を恐れ、これまで健全に経営してきた企業からも融資の引揚げや貸し渋りを行い、結果として企業は経営困難となり、リストラや倒産に至るものが増加し、経済の先行きは未だ不安定な状態を示しております。

しかし、ノーベル経済学者を擁する金融マフィアの1998年後半におけるロシアへの投機の失敗は、

皮肉にも円安から円相場の平準化をもたらしております。

このような不況下で諸君の中には意中の企業に入れなかったり、就職できなかった人もありますが、挫けずに自己鍛練に努め、飛躍の時期を待つて頂きたい。禅語に“一隅を照らす”という言葉があります。自分が如何なる環境に置かれても、与えられた場所で懸命に努力をすれば、自ずから道が拓けるという事です。

また、諸君に申し上げたいのは、諸君がこれまで何らの疑問もなく過ごしてきた消費意識の改革であろうと考えております。

企業の論理として大量生産・大量消費は必須条件と考えられてきましたが、過剰な生産とその廃棄は大気中の炭酸ガスの増加による地球の温暖化であり、ダイオキシンに代表される環境ホルモンの増加による生態系の破壊がとりざたされております。

また、過剰な消費を支える生産の継続は更なる廃棄を余儀なくされ、ついには人類の生存すら脅かすとの報告もみられます。

諸君の保護者にバブル時代ほどの収入は期待できなかったかも知れないが、諸君の多くは希求するものは殆んどが手に入り、抑制される事は僅かであったと考えられる。

しかし、諸君はこれから社会に出て、それぞれの職場あるいは仕事によって得た収入の範囲での生活を余儀なくされます。諸君がこれまでの消費の惰性を続けると、その先には自己破産やカード破産がまっています。

社会人として独立する諸君に期待するのは、健康で文化的な生活とは物にあふれた環境ではないという事の認識と、ダイレクトメールやキャッチセールスなどの誘惑や氾濫する商品情報の中から、真に必要なものを選択する賢明な生活者としての姿勢であります。



外国語教育の環境に期待する

東京都立大学人文学部独文専攻 助教授 保 阪 靖 人

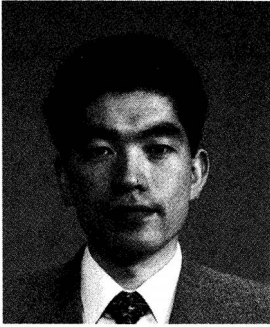
富山大学を卒業して何年になるかな、と振り返ってみると、もう20年近くになることが分かりました。そんなに前のことだったのかと、驚きを隠せません。その間に、国立大学の大綱化が始まり、富山大学はその先陣をきっていた、と聞いております。カリキュラムや教育組織、ならびに教員の構成のなどが大きく変化したと思いますし、そのあいだ、先生方の苦労も大変なものであったろうと想像いたします。私の教えるドイツ語の分野でも、ドイツ語履修者が激減し、一方では中国語履修者が増加したことなどが話題となりました。それも昨年からは元に戻ったようで、一時的な傾向であったようです。教育環境は今後も変化していくでしょうから、これから書くことが見当違いにならないかと思っています。

私が卒業したのは、ドイツ語・ドイツ文学コースでした。その当時はそれほどありがたみを感じていなかったのですが、富山大学は多言語にわたるコースを持っています。英語、ドイツ語、ロシア語、中国語、朝鮮語、言語学、さらに言語関係では国文学も入るでしょう。フランス語も、専攻はなくても、フランス語の先生はいらっしゃいます。このように多彩な言語や文化のスタッフを持つ大学は、国立大学を見渡しても「〇〇外国語大学」と称される大学だけであり、この点ではとても誇れると思います。研究できる対象言語が複数あり、バラエティに富んでいる、というのは学生にとって選択の幅が広がります。また違う言語コースの授業を受けることで、「私は何を研究したらいいのだろうか」という学生のよくある悩みも解決できることがあります。私も最初は、ドイツ文学の研究をしようなどと考えていたのですが、英語学の授業を受け、また当時富山大学に創設された言語学コースのいくつかの授業を受けて、理論言語学へ興味を持ち今に至っています。古典語

の授業も受けることができたのも、大変幸運だったと思っています。国語学の授業も大変参考になりました。今から思うと、もう少し朝鮮語に興味を持っていたら、と悔やまれますが、当時はドイツ語で手一杯でした。このような多彩なコースのおかげで、アプローチの異なる言語研究に触れ、ドイツ語を相対化できたことは、研究のプラスとなりました。たとえば、英語などを中心として発達している文法理論の論文を読んでも、「それは少し違うのではないか」とドイツ語の目からも批判的に吸収することができました。

最近はインターネットによる資料収集、意見交換などが盛んで、英語が大切、英語だけあればいい、などということも耳にします。しかし実情は逆ではないかと思っています。現在、書籍だけでなく、CD-ROM、ビデオ、インターネットなどのメディアによって得られる情報はとても1人で処理できないぐらいです。しかも必要な情報はわずかなのです。情報をいかに捨てて、自分の思考をくみ上げていくのが試されています。世界のWebサイトを検索すれば、ドイツ、フランスなどのサイトも出てきます。ドイツ語・フランス語が読めることで情報をさらに取捨選択することができるのです。英語以外の言語ができることはとても大切になっています。

アメリカの大学で教えているドイツ語教師と話す機会があり、英語以外の外国語の教育は非常に需要が高いので、ドイツ語の教師の就職は悪くはないんだよ、と言うのです。これも英語だけではやっていけないとアメリカ人自身が感じていることの表れでしょう。富山大学は、多彩な言語、文化の研究の機会を提供できるとても貴重な研究・教育機関です。この研究・教育環境をこれからも維持し続けていただきたいと思います。



学部を越えた友達づくりを

大学院教育学研究科（富山市立豊田小学校教諭）1年 高地 修

学生の皆さん、自分の所属している学部以外で、情報交換のできる友達は、何人くらいいますか？

同じ学部内で、たくさんの友達がいることはもちろんのこと、学部外の友達もとても大切です。

私は、現在小学校の教員をしています。何となく毎日を平凡に過ごしていると、教職員の世界しか見えなくなってしまう。すると、仕事上における判断やアイディア、子供の接し方が、画一的になり、時代遅れになってしまいます。しかも、それらが一番良い方法だと思い込んでいるために、見直そうともせず、他の人から見ると柔軟に対応できていない状況に陥っていくのです。

そこで、いつも私を救ってくれるのが、他の職種の友達や知人です。私は、話好きなので、機会があるとないつい世間話をしてしまいます。飲食を伴うと、もっと会話がはずみます。会話の内容は、政治、経済、スポーツ、娯楽、芸能、グルメ、子育てなど、いろいろな年代やいろいろな職種の人が集まれば集まるほど豊富になります。これらの話題が、私の視野を広げてくれます。

やはり、他の業界で働く社会人と、自分を比べると、世の中を見る観点や状況のとらえ方が、ずいぶん違うものだと思えます。また、今年度は、学生とも話をするのができ、得をした気分です。

ところで、昨年12月に教育学部3年生の就職に関する研修に携わりました。教員就職志望者、一般企業就職志望者、どちらか迷っている者、それぞれの学生たちと接して感じたことの一つに、就職に対する情報の甘さがあります。「教員は採用数が少なくてなにくい。」というのは分かりま

すが、一般企業の就職難も同様に深刻だということです。しかも、自分の望む条件の企業を探そうとすると、さらにたいへんです。にもかかわらず、今のところ、学生はあまり対策をとっていないというのが実状です。教員を目指すか、目指さないか関係無しに、就職情報が少ないと損をします。もし、他の学部で友達がいたら、就職に向けて何か準備をしているか聞いてみてください。何か、発見があるはずです。

今、就職を例に挙げましたが、それだけに留まることはありません。情報をより多く交換すれば、視野の広い考え方や行動ができることにつながると思います。その際に、意識して難しい内容の話をする必要はありません。世間話で構いません。

最後に、当然ながら、同じ分野で取り組む友達は大変です。自分の立場をよく理解してくれて、心の支えになります。しかし、知らず知らずのうちに、自分の周りには、いつも同志が集まり、自分のいる世界しか見えていないということがあります。

ですから、学部を越えて、他の分野で取り組む友達をつくることも絶対に大事です。そして、常に幅広い情報交換ができるような学園になることを期待しています。

きっかけづくりはどうするか？きっかけづくりは、学生の皆さんにとって、得意とするところではないですか。サークル活動、部活動、アルバイト、合同コンパ、・・・。

学内でさまざまな情報をたくさん取り入れながら、自分の専門分野を一層磨いていきましょう。



自信をもって国際化時代を生きるために

北村労務会計事務所 税理士 北 村 彰 英

私が大学院経済学研究科を修了して2年が経とうとしています。現在、金沢の実家で家業の会計事務所を手伝い忙しい毎日を送っていますが、立山連峰の美しい雪景色を見ながら論文作成に没頭していた頃は今も忘れることのできない素晴らしい思い出です。

富山大学での研究を通じて私が得たものは、今でも私の生活に大きく役立っています。主に理論面における研究が中心でしたが、こまごまとした実務に就いても、より大局的なものの見方を徹底的に身につける訓練の場所でした。話は変わりますが、未曾有の平成不況は今も続いており世界はユーランドとドル経済圏とに二極化しようとしています。激動の新しい世紀を生き抜くために、これまでとは違った基準があらゆる分野において現代人に求められております。後輩学生の皆さんはみずから体験していく、困難ですが希望も大きいこの時代を見極める目をまた自信の判断基準を養うことを大切にしていきたいと思います。

新しい時代の日本は、アメリカやアジア諸国を初めとする世界中の国々と上手につき合っていくことが必要不可欠となります。これは、規制緩和による日本市場のオープン化が不可避となり、同時にアジアにおける日本の役割と責任がますます求められるという大きな変化の到来を意味しています。第二次大戦後、国の復興と経済成長に傾注してきた日本は他国のことを顧みる余裕がなかったのかもしれませんが、これからは好むと好まざるとに関係なく、本当の意味での国際化の時代を迎えることになると思われます。これまでの日本人のやり方、自分のやり方は曲げざるを得なくなるでしょう。

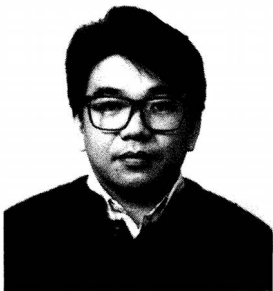
こうした複雑な時代にこそ、みずからの生き方や判断基準を明確にもって世界の人々と互しく姿勢と行動力が必要です。富山大学での2年間で私はたくさんのアジア諸国からの留学生の皆さんと出会い、今での電子メールなどを使って連絡を取り合っていますが、在学していた当時から私たち日本人のリーダーシップに対する彼らの期待は大きく、「あなた達日本人がしっかりしてくれないと」と叱咤されたものでした。彼らの多くは自分と自分の国に自信を以て、明るく本音ではっきり意見交換ができる友人をもとめており、これもいま日本人に期待されていることなんだと実感することができました。

産官学に加えて国際的交流も実践している富山大学は、私にとっては2年間で修了するにはとても惜しいほどの絶好の研究環境でした。大学を卒業後、4年間の就職をいちど経験していましたから、勉強したいという意欲が旺盛だったことも事実です。学生の皆さんは友人や先生ばかりでなく、「その気になれば」社会人や留学生とも深く長い付き合いができるのです。先生とこれら多様な友人との「本音で語り合う極上の時間」と、そこから身にしみこむ様々な思いをどうぞ大切にしてください。友達と冗談言って笑ってアルバイトしてたらもう卒業だったでは本末転倒です。この貴重な学生生活で「一生モノ」のあなた自身を磨き、自信を持ってこれからの真の国際化時代を生きていきましょう。

最後になりましたが、学恩ある古田俊吉学部長と多くの先生方、そして今も励まし合う世界中の友人たちに感謝と御礼を申し添えたいと思います。

これから社会に出る皆さんへ

YKK金属材料研究所 竹 田 英 樹



社会に出られる皆さんに何か言葉をということ
で紙面をいただきましたが、私自身まだまだ社会
の荒波にもまれ苦しんでいる状態で、アドバイス
といったことはできません。そこで適切かどうか
分かりませんが、卒業の時にこういう事を心がけ
ればと良かったと思っていることを思いつくまま
書いてみることにします。

大学卒業と同時に殆どの皆さんは就職し、これ
で一生の方向が決まると思います。ここで一生の
方向は、どの会社に就職したかできまるのではなく、
何を考え社会に出るかで決まるのだと私は考
えます。何を考えるべきなのかを述べる前に、ま
ず私の目から見た社会状況の変化について振り返っ
てみます。

私が富山大学を卒業した'88年は、円高不況か
らバブル景気へと変わり、就職状況は売り手市場、
学生は複数の就職内定をとり、企業の就職担当
者は学生を接待漬けにし、技術系の学生が銀行や
証券会社へ就職する時代でした。そしてご存じの
ように'91年のバブルの崩壊、'97年のアジア金融不
安、'99年の金融界の再編と21世紀に向けてまさ
に社会は激動の時代を迎えています。堅実と思わ
れた銀行が破綻し、大企業だけでなく公務員もリ
ストラとは無縁ではないような状況です。私が社
会に出たこの10年間で、日本は自信に満ち溢れた
時代から自信喪失の時代へと大きく変化しました。
失業率は米国のそれを上回り、もはや終身雇用
に代表される従来の日本システムは崩壊寸前で、
本当の実力社会が到来しつつあると実感しています。

このような話をしているのは、我々の就職した
時代は良かったといっているのではありません。
昨今の不況では、希望する企業あるいは職種に就
職できず、不本意に思っておられる方が多いと思
いますが、「どの会社に入る」という基準で就職
したならば、これからの実力社会では到底生き残
れないと思います。この様な実力社会に出るにあ
たり考えていただきたいのは、自分のアイデンティ
ティを持つということです。このアイデンティティ

とは皆さんの「やりたいこと」、そしてそれに対
する行動で確立されるものです。つまり重要なこ
とは「何をやりたいか」だと私は思うのです。
「やりたいこと」つまり目的さえ見つけられれば、
必ずそれを実現できるチャンスは巡ってくるはず
です。また目的が明確であれば、それを実現する
方法や他人の目などは関係ないことに気づくはず
です。私自身のことになりますが、YKKに入社
後3年ぐらゐは「やりたいこと」が見いだせずス
トレスを感じていました。その後研究生として大
学へ出向し、学生時代に興味をもった磁性関連の
研究をする機会を与えられました。YKKはファ
スナー、アルミサッシ、工作機械のメーカーで、
磁性とはほとんど関係ありません。ですから企業
の研究テーマとしては問題があり、続けるには困
難が伴います。しかし、これは私の「やりたいこ
と」だったので、困難を通してテーマについてよ
り深く考えることができ、また困難をどの様に克
服するか考え、逆にこの困難を楽しむ余裕さえ生
まれました。

私は「やりたいこと」をすることによって状況
や環境がどの様であろうと左右されない自分を発
見することができました。ここで「やりたいこと」
は私のような学生時代の興味でなくとも、会社の
仕事を通して見つけたものや、各種資格や技術、
そして趣味やスポーツなど何でもよいのです。こ
の「やりたいこと」に打ち込むことで、キラリと
光る存在になり、また本人にとって環境がどの様
に変化しても変わらない「自信」となっていきま
す。実力社会で生きるためには、この自分のアイ
デンティティを持つことが最初の一步になると考
えます。

だからこそ、卒業する皆さんには是非とも早く
「やりたいこと」を見つけ、それをずっと持ち続
けて欲しいと思います。

最後になりましたが、これからの皆さんの活躍
を期待し、また充実した社会生活を送ることがで
きるよう願っています。



社会に望まれている大学生

富山県環境科学センター 鳥山 成 一

社会で望まれている大学生は、①安心して全てを任せられる人、②仕事の面で絶えず新しい発想を求め実行する人のように思われます。

大学で学んだ専門でそのまま社会に出て役立つ職場はごく限られた分野でしかありません。一見、化学系の専門専攻者を求めているような環境の分野でも、近年は酸性雨や海洋汚染問題などの東アジアにおける環境問題、ダイオキシンや環境ホルモン等に代表される新しい化学物質汚染、インターネット等を使った環境情報公開等に幅広く対応できる人材が必要となっています。化学系ばかりでなく、生物系、電子系、機械系、材料系、衛生系、薬学系、食品系など多種多彩であり、それぞれの出身者が自分の専門に留まらず、広範な“環境系”の中で各自一人一人がこれら全ての分野に携わらなければならない現状です。社会では大学で学ぶ以上の知識を要求していると思います。

一つの仕事を成し遂げるときは、知識だけではできません。まず、①目的、②知識、③時間、④成果が必要ではないでしょうか。①目的が一番大事なことですが大きなものは職場の組織等で決めます。しかし、①目的、②知識が整っても、問題は③時間、④成果が早く正確に成し遂げられるかどうかです。大きなプロジェクトのような仕事ば

かりでなくどんな小さな上司の指示でも同じことであり、どれだけ優秀な人でも時間がかかり過ぎでは期限のあるものは役立ちません、早すぎても不正確では使い物になりません。

また、一方では、仕事の面で絶えず新しい発想を求め実行する人が求められています。民間企業であれば当然ですが、我々のような地味な職場でも、新しい発想を求め企業のような営利感覚に近いものがが必要です。例えば、小さなことですが正確でかつ短時間で安く分析できないものかと追求するようなものです。

学生時代の卒論は、すばらしい成果を上げるに越したことはありませんが、この4つのプロセス（①目的、②知識、③時間、④成果）をこなす能力や新しい発想を訓練するところであると思います。



退官教官雑感

工学部知能情報工学科 教授 中山 剛

昭和62年の春に24年間勤務した日立製作所中央研究所を辞して、富山の地に来てから、はや12年になります。

当時、私大が八王子近辺に情報系の学科や学部を盛んに新設しており、そのどれかに、などと思っておりましたが、当大学のさる教官のご尽力で、トントン拍子に話が決まり、西も東も分からぬまま富山に参りました。富山に来て、先ず戸惑ったのは、この方向感覚で、永らく山は西または北にあり、海は東か南にある世界に住んでいましたので、海が北にあり、山が東や南にあることに慣れるまでかなり時間がかかりました。

来る前に、富山出身者から、富山には親切な人が多いと聴いてきましたが、住家を変える毎に必ず一人か二人の超親切な人が現れ、ここまでするかと思うほど面倒を見てくれるのには参りました。しかし、住み慣れるにつれ、良かれ悪しかれこれが都会では味わえない田舎の良さなのだということが実感されるようになりました。

当初は工学部の共通講座の情報処理講座に着任し、工学部全体の情報処理教育を担当しましたが、二度に及ぶ学科改組で、知能情報工学科として情報部門を独立させることが出来、かつ、博士後期課程も設立されて、学部の4年生から博士後期課程の学生まで研究指導をする内に、時々、こちらの期待を上回る成果を出してくれる学生に巡り会うなど、教師冥利につける喜びを味わえたのは望

外の幸せでした。

また、住居や教官室の窓から白銀に輝く立山連峰を眺め、9月には「風の盆」に興じる生活はある意味では現代のシャングリラのそれであるとも言えるでしょう。最初は定年が来たら、東京の西の外れにある家に帰る積もりでしたが、最早その気はなくなり、八尾町近辺に家を求めました。

これからが人生の最後に残された貴重な自己実現の期間であり、私にとっての正念場であると思いますので、皆様のご教導の程をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、富山大学の益々のご発展と、教職員の皆様のご健康とご多幸を祈念いたします。

わたしの研究室

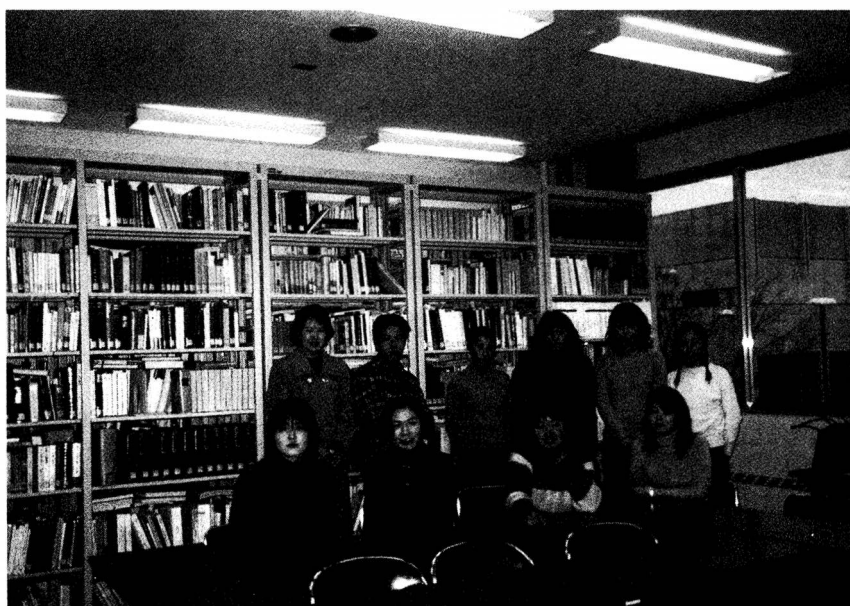
わたしのコース紹介

人文学部言語文化学科フランス言語文化コースは一昨年はじめて卒業生を送り出したばかりの新設コースですが、サッカーのワールドカップ優勝の御利益もあってか、元気でやる気のある学生（三学年で約20名）と、ハイ・テンションをもってなる教官（及び少々お疲れ気味のヒト若干名）が集まり意気軒昂、日々学業（？）と文化活動（フランス映画のビデオを鑑賞しつつ、ワイングラス片手にコンパ）にうちこんでいます。

一方でシャネルやルイ・ヴィトンに代表される華やかなファッションのフランスもあれば、地味で危険を伴う救援、援助活動に真摯に取り組むフランスもあり、ヴェルサイユ宮殿に代表される輝かしい伝統文化の優越性を誇るフランスがあるかと思えば、アメリカ文化の攻勢にさらされつつ、それを巧みに消化し（単に真似しようとしてうまくいかないだけだという説もある）独自の流行を作り、新しい文化情報を発信しようとするフランスもあります。

かつての「暗い文学少年少女」はすっかり影を潜め、現在のフランス言語文化にたいする関心は、何よりもアクトチュアルな今のフランスに向かい、そこから次第にフランスの文化や文明の持っている複雑かつ多面的な広がりや深さへと移っていくように思われます。実際に使う言葉、使われる言語にたいする関心、話しをすることを通して相手の生活や文化に触れたいという欲求がかつてなくなたかまっているわけですが、残念なことに富山在住のフランス人、フランス語圏出身者はきわめて少数にすぎません。それでもこれまでは、偶然や幸運のおかげか、どこからともなく好意的で感じのよいフランス人（今年はシャルティエ先生という素敵なお方にきていただいております）があらわれ、生きたフランス人と接する機会を継続的に持つことができています。

大学のキャンパスを会場としてフランス語検定試験が実施されており、コースに入ったからには受験をほぼ義務づけられますが、一方ではこれに合格すると豪華フランス料理にありつけるという噂もあり、真偽のほどはともかく、つい力もはいろいろというものです。夏や春にはフランスで開催される短期の語学研修に旅立つ者、さらには将来を見据え、長期の語学研修に励んでいる人もでてきています。帰ってきたら、一緒に土産話を聞いてみませんか。



わたしの研究室

地域の自然と社会に学ぶゼミ—教育学部地理学研究室

教育学部小学校教員養成課程社会科専攻地理学ゼミ3年

小山 裕 一

こんにちは、僕は教育学部社会科の地理学ゼミに所属しています。僕達社会科では、教育学部の他の科目専攻と比べると非常に早い時期からゼミ分けが行われ、2年次当初から各学生がゼミ毎に分かれます。ゼミは日本史学ゼミ、西洋史学ゼミ、社会科教育ゼミ、経済学ゼミ、法律学ゼミ、政治学ゼミ、そして僕達の地理学ゼミの計七つが存在しますが、今回のこのコーナーでは、自分が所属する地理学ゼミを紹介したいと思います。

地理学ゼミは厳密に言うと自然地理学系と人文地理学系の二つに分かれており、本来なら二つのゼミに分かれるところなのですが、地理学ゼミとして、現在、4年生4人、3年生8人、2年生4人の計15人で活動しています。一つのゼミとして活動しているということは、当然ゼミ生全員が、自然地理学、人文地理学の両方を勉強しているというわけです。

自然地理学は田上善夫先生に御指導いただいております。今年度の田上先生の地理学演習・実験の授業では、気候、気流など、自然環境に関する情報をネットワークから入手する方法をまず勉強し、この方法を使って入手できた情報から地理情報システム（GIS）を構築して、その解析を試みようとしています...と偉そうなことを言ってみましたが、機械に弱い自分にとっては理解に苦しむことも多く、地理学ゼミ生の中では僕が一番手こずっていると言い切ってもおかしくないと思われます。とにかく機械に疎い人間には辛い授業ではありますが、そんな時、温厚な田上先生はいつもの「田上スマイル」で指導して下さいます。そんな田上先生を前に、自分の非力さを改めて感じている今日この頃です。

人文地理学は山根 拓先生に御指導いただいております。今年度の山根先生の地理学演習・実験の授業では、近年の地理学の動向について説明された専門書を教科書として使用し、これをみんなで読み議論しています。毎回、ゼミ生それぞれが任された章節の内容をレジュメにまとめておき、授業中にそれを基に参加者の前でわかりやすく説明してゆき、質疑を交わして、みんなで地理学の理解を深めていこうとしています。これまでのところ、農牧業の地域区分についてや、工業立地論、消費者行動についてなど、自然環境にまつわることも人間活動の発端あるいはその原因を中心に勉強しているような気がします。そのせいか、自分としては結構興味を持って授業に臨んでいます。しかし、地理学ゼミ生としてこんなことを言うのもなんなんですが、あまりに地理学に対して素人の自分たちには理解できないことも多く、説明するにあたっては相当の予習が必要とされます。しかし、山根先生はきっと僕達の地理学に対しての勉強不足を解っているのでしょう、理解に苦しむ部分に関しては、非常にわかりやすく、かつ丁寧に教えて下さいます。それは逆に言えば、それだけ僕達が迷惑をかけているということになるわけですが...。ゴメンナサイ。

それはともかく、僕達地理学ゼミの授業風景を少しは想像していただけたでしょうか。

しかし、地理学ゼミの授業はそれだけでは終わりません。「巡検」が年に2回、春と秋にあり、3年生はさらに夏にもこの「巡検」に出かけます。これをそれぞれ地理学教室では、「春季巡検」「夏季巡検」「秋季巡検」と呼んでいます。この「巡検」という言葉、国語辞典によると、「ある範囲の場所を見回り、秩序が保たれているかどうかを調べること」とあります。何だか余計にわかりにくくなりそうですが、要するに、大学のある富山市以外の（夏・秋季巡検は県外）市町村に行き、そこで自分の関心のあるテーマについて調べようとする、宿泊を兼ねた調査学習のことを、僕達は「巡検」と呼んでいます。最近では、「秋季巡検」が1998年11月8日～9日にかけてあり、新潟県糸魚川市に行って来ました。一日目は半日かけて糸魚川市を全員で歩き回り、糸魚川という街を概観してきました。そして二日目には、それぞれのテーマに基づいて個別行動をとり、市役所等に出向いてお話を伺ってきた人もいれば、機材を持って実地データの採取にあたった人もいました。とにかく自分が関心を持ったテーマについて、それぞれが徹底的に調査するのです。今回の糸魚川巡検について、その例を挙げるとすれば、「糸魚川市において観光産業は地域にどのような影響を与えているか」や「JR大糸線が糸魚川市で果たしている役割」「糸魚川市の自然地理について」「ヒスイと糸魚川市との関わり」などがあります。みんな当日は頑張って調査に励んでいました。その成果ももうすぐ出るはずです。

今度、あなたの街で、変な機材や緑色のスケッチブックみたいなもの（フィールドノートといいます）を持って、群をなしてテレテレ歩いている集団を見つけたら、それは間違いなく僕達、地理学ゼミです。その時は気軽に声をかけてみて下さい。「よっ！地理ゼミかい！」って。きっと手を振って応えてくれるでしょう。きっと。うーん、多分...



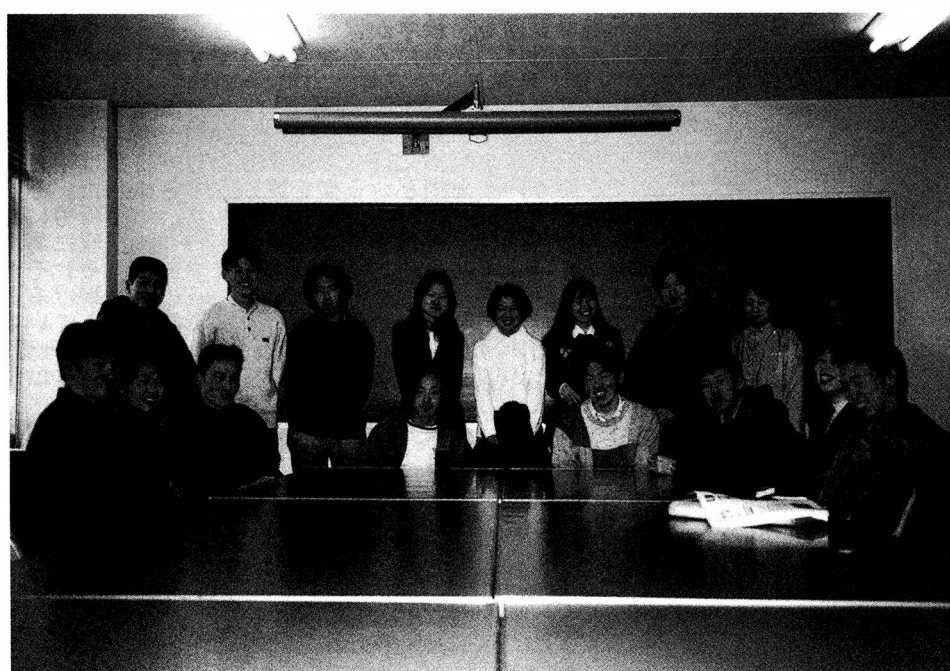
わたしの研究室

わたしのゼミ研究

我々、西村ゼミの研究テーマは、刑事事件の諸判例の研究である。教科書も何もない。各回一人の学生が、決めたテーマを発表し、それに基づいて議論する形式のゼミだ。当然、今話題の脳死問題などもテーマになる。そして刑法上の問題ではないが少年法もテーマになる。これらのテーマについて学生達はフリーディスカッション方式で熱い議論(?)を展開している。そして発表者はいつもベストをつくして(?)テーマの研究をし、ゼミの準備をする。そうでなければ、先生や学生から容赦なく意見や攻撃が浴びせられる。このようにして毎回のゼミは進んで行くが、我々のゼミの最大の特徴は、毎年一回机の上だけの勉強だけでなく、実際の刑務所に見学に行くことです。そこで、自分の足で刑務所の中に入り、刑務作業や施設内を見学する。専攻しながらあまり身近に感じれない刑法を、身近に感じることによって、より議論の幅が広がる。さらに4年生の卒業論文では、それぞれが自由にテーマを見つける。そこには何の規制もなく自由に興味を持ったことを学生生活の締めくくりとして、いままでの成果を100パーセント発揮する。

このゼミに在籍する学生は、あくまでも個人主義であり、あまり他人のことに干渉はしない。その独特の雰囲気から3年生は最初ついていけないところがあるかもしれないが、学生生活において最大のビックイイベントである就職活動などを通じ、自分をしっかりともち、積極的に議論に参加するようになる。このようにして議論はより熱いものになる。しかし、熱い議論が行われるからといって、別に教室の雰囲気が緊張しているわけでもなく、いつもは和やかな雰囲気であり、普通のゼミの教室である。普通の富大生が在籍するゼミである。ただ、我々はやらなければならない時は、常に真剣になり、他人の意見に左右されることなく、自分の意見を述べるだけである。すなわち、頑固者が多いというのが、このゼミの伝統のように思います。

こんな個性が満ちあふれたゼミは、みんなの親分的存在の西村先生を中心に、常に真剣に熱い議論を展開する、活気にあふれたゼミである。



経済学部経営法学科4年

浅野

隆

わたしの研究室

大気から地球深部までの地球変動の研究

理学部地球科学科地球ダイナミクス講座修士課程2年

中川靖浩

1997年4月、地球ダイナミクス講座が発足しました。昨年9月、気象学を専門とする川村先生が着任し、講座の教官4名が勢揃いしました。ここでは、地球ダイナミクス講座が目指すものを簡単に紹介します。

地球は、大気圏から地球内部まで活発に活動しています。今までは、地球内部、地球表層、大気圏と分野が別れて研究が行われてきました。しかし、各層の変動は互いに連動しているのです。たとえば、恐竜が繁栄した時代は、今より平均気温が10℃程度も高い、異常に暖かい時代でした。それは、恐竜自らが人間のように環境破壊して温暖化したわけではなく、地球全体の火山活動が活発化し、大量に放出された二酸化炭素による温室効果のためです。火山活動活発化の原因は、地球中心核の流体鉄の対流が活発化し、そこから巨大プルームが地表に向かって上昇してきたためと考えられています。

我々が住んでいる地球規模の環境変動を予測していくためには、地球内部（川崎教授・塩原助教授）、地球表層（竹内教授）、大気（川村助教授）など、あらゆる方面からの総合的な研究が必要であることがわかります。

以下は、昨年9月に富山大学にこられた川村先生の簡単な自己紹介です。

私は気象学を専門としており、主な研究分野はモンスーン・熱帯気象学、気候モデル研究、大気海洋相互作用に関する研究です。また、防災の面から、「大陸規模の災害予測」を目標に、集中豪雨や台風による洪水や干ばつなどの気象災害をもたらす現象の基礎的研究も行ってきました。近年数年間は北陸地方や北日本では暖冬少雪傾向が続いています。水資源予測とも関連して、地域に密着した雪氷大気相互作用の研究も新たに進めていきたいと思っています。教育面では、地球規模の環境問題を真正面に取り組んでいける能力を持った人材を育成したいと考えています。これまで地球科学科の地球物理系は固体地球分野と雪氷物理分野だけでしたが、気象分野も出来たことになります。地球ダイナミクス講座の一員として、大気・海洋ダイナミクスの様々な謎を解き明かしていきたいと思っています。

写真は、地球ダイナミクス講座の教官と学生。前列右端川崎、前列左端竹内、後列左端川村、その右塩原（左から4人目中川）。



わたしの研究室

工学部黒田研究室の紹介

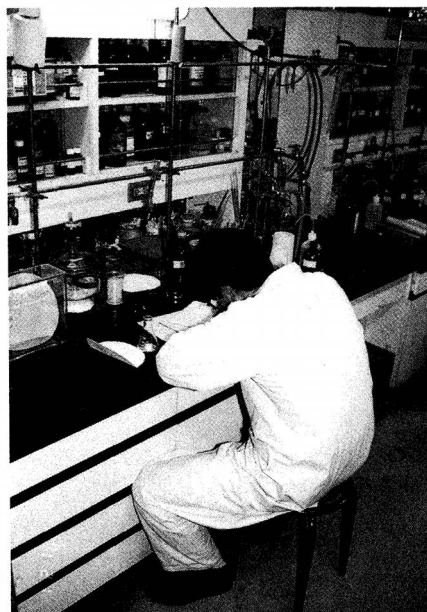
工学部物質生命システム工学科 応用化学②講座一同

工学部物質生命システム工学科の応用化学②又の名を精密有機合成化学講座の講座紹介をします。研究室は主に工学部化学棟2階にあり、大実験室が2部屋あります。我々には分かりませんが多くの人は研究室前の廊下を歩くだけで気分が良くなると言われています（何しろ芳香族化合物を扱っているのです）。当研究室では有機合成化学を行っています。新素材や機能性材料の開発のための基礎研究、種々の生理活性を有する天然物の合成を目指しています。特に新規な π 電子共役系化合物を合成し、その物性を調べるのが主な仕事になっています。

次に当研究室のスタッフを紹介します（1999年1月現在）。教授の黒田先生は昼休みのバドミントンを欠かさず、ソフトボール、スキー等健康と体力の維持のみを心がけています。助教授の小田先生は几帳面で、毎朝の部屋の掃除を欠かしません。全く学生の手本です。助手の宮武先生は専門がコンピュータと思われるくらいMacに凝っていて困ったことがあればすぐ相談に乗ってくれます。技官の美人で可愛い井澤さんは毎朝おいしいコーヒーを入れてくれます。博士後期課程の学生は各学年一人ずつ計3人で、学位取得に向けて日々努力しています。3人のうち、1人は社会人、1人は中国からの留学生でバラエティに富んでいます。博士前期課程の学生は1年生（M1）が5人、2年生（M2）が4人います。M1の学生はスポーツからパチンコまで様々な趣味の持ち主がそろった特にバラエティーに富んだ面々です。M2の学生も多趣味では負けないはずですが、今は3月に無事修了できるように（既に全員就職先が決定！）、脇目もふらず（ホントに？）頑張っています。また、院生と共同で研究している（立場が逆転しているという話も・・・）4年生は全部で9人で、そのうち4人が大学院進学を希望しています。

研究室の年間行事（飲み会？）の数々を。当研究室はまず、新歓&花見（4月）から始まって就職内定祝（4～9月、随時）、研究報告会の慰労会（7、12月）、講座旅行（8月）、大学院合格祝（9月）、学会発表の慰労会（9～11月）、修論・卒論発表の慰労会（2月）、講座スキー、卒業式（3月）、講座対抗のスポーツ大会等があり、またそのときの雰囲気ですoftボールやボウリングなども楽しんでいます。

このように、私たちの研究室はよく実験し、よく遊ぶことをもったうにした研究室です。なお、当研究室では有機合成化学をこよなく愛する人、ソフトボール、スキーあるいはバドミントンができる人、ならびにお酒が飲める人を準構成員として随時募集しております。



ドイツに留学して

教育学部小学校教員養成課程

数学専攻4年 西田文枝

私は、教育学部より国費留学生として、平成8年9月から、平成9年7月までの11ヶ月間、ドイツのルートヴィッヒスブルク教育大学で、過ごしました。もう、帰国して1年半が過ぎようとしているにも関わらず、ドイツでの出来事は今も鮮明に覚えています。

ルートヴィッヒスブルク教育大学で、私はドイツの歴史や政治、ドイツ語の発音などを学ぶ留学生のための授業と、また、ドイツ人の学生に紛れて自分の専門分野を含め、自分の興味のある授業に参加しました。

一般学生との授業で、毎回、感じたことは、ドイツ人の学生は本当に自ら学ぼうとしているということです。決して受け身ではないのです。だから、みんなとても生き生きしていました。ドイツの大学教授も、その姿を願ってか、必要なことを話すとすぐ、わきに下がり、学生たちが自由に進めていけるようにしていました。

本当に、ドイツの学生には自分があると思います。他人と比べることによって判断するのではなく、自分の中で判断しているのだと思います。

また、ドイツの大学の教育内容と日本のものはやはり異なります。その中でも、教育実習のあり方がかなり異なっています。ドイツの大学では、授業を受けている学期中にも教育実習があります。週に1度、指定の学校に訪問し、授業を行ったり、チーム・ティーチングをします。これは、半年ごとに行われるのですが、上級生になってから始まるのではありません。教員を目指して教育大学に入学するとすぐに始まるのです。この教育実習は、1クラスに大学1年生から3年生の3人が担当しています。だから、入学してすぐの教育実習でも、よい先輩がついていてくれるので安心なのです。

しかし、私は、たとえよい先輩がついていても、授業を行うことなんてできないと思いま





す。きっと、「こうあるべきだ。」と、いう考えを知らない限り、私はなにもできないのではないかと思いました。結局、自分一人では行動できないのではないかともし思いました。少し寂しい気がします。日本とドイツ、教育制度も、教育に対する考えも異なります。その中で私が感じたことを教員になって還元していきたいと思っています。

また、留学先では日本人は私一人だったので、相談する相手は外国の人だけでした。

日本にいる家族と電話で話をしても気持ちが伝わらず、もどかしい気持ちになるたび、留学生としてきていたイタリア人の友人に話をしにいきました。お互いの家族のことや恋愛のことなどを話し、思わず泣いてしまったり、お互いつたないドイツ語で話していたけれど、それが気にならないくらい気持ちが通じ合っていたように思います。そのようにして、話をしている中で、私が妹に対して、「若者の考えていることは分かんないわ。」と、言っていると、弟がいるその友人はとても共感して、「本当にそうね。国は違っていても同じなんだね。」と言いました。また、続けて、「本当は日本人とこんなに話せるとは思わなかった。」と言いました。

私は、留学していたときのことを思い出すときこの言葉を一番先に思い出します。結局みんな一緒なんです。顔も育ってきた環境も異なるけれど、やっぱり、一緒なんです。このことを自分自身で感じ取れたことは、これからの自分にとって貴重な経験だったと思います。

最後に、このような体験ができたのは教育学部にドイツへの道を築き、つなげてこられた先生方、先輩方のおかげです。本当にありがとうございました。



留学生活から学んだこと

教育学部小学校教員養成課程

理科専攻4年 吉田真紀

私は97年の9月から98年の7月までの約11ヶ月間ドイツのルートビヒスブルクという町で教育大学に通いながら留学生活をおくりました。私の住んでいた学生寮には外国人留学生も多く、当初は言葉の問題からつらいことも多々ありましたが、特に彼らとは同じ問題を抱えるもの同士励まし合い、助け合って多くの交流をもち、またいろいろな人に支えられ楽しく充実した時を過ごすことができました。そうした中でドイツ文化だけでなくいろいろな国の文化にも触れ合うことができ、考え方や価値観の違いから学ぶことが多く、また興味の範囲が広がって、新しいことを始めるのに臆病だったのが積極的に挑戦するようになり、随分視野が広がりました。ドイツには週末にたったの3000円で大人2人が地域列車でドイツのどこへでも行ける週末切符があり、私は多く利用しました。時には目的地まで13時間かかったこともありましたが、列車の中で友達と話をしたり、窓の外の美しい景色を見たりして過ごすとなんとも苦にはなりません。そうしたゆっくり流れる時間は、いろいろなことを考え、日本やこれまでの自分を客観的にみつめる貴重な機会を与えてくれました。ドイツでは働いていてもまとめて一ヶ月間くらいの休暇をもつことができるので、人々はよく旅行にでかけます。彼らはゆっくりと体を休め、心を満たし帰ってきます。これらのドイツの旅のシステムは心にゆとりを与え、生活に刺激を与えるもので、すごくいいものだと思います。

学校にはコンピューターが設置されていたので、大学の先生方や事務の方、友達とe-Mailの交換を毎日行いました。遠く離れていても、一日もすれば返事が届いていて、その距離感を感じさせないことや温かい言葉によるメールが私をとて支えてくれました。

ドイツでの生活の中で一番驚き興味をもったことは、ドイツでの環境保護活動と人々の徹底した環境意識です。ドイツには自動販売機がありません。当初はその不便さに腹立だしく思ったものですが、慣れてしまうと何てことはなく、日本に戻ってきて至る所に存在する自





動販売機を見て何ともいえないくらい気持ちになりました。ドイツでは、瓶入り飲料水を飲むのが一般的です。その重い瓶を学生たちはいつも携帯しています。瓶には保証金が割高でついていることもあって使用済みの瓶はすべて収集、洗浄され再利用されます。

缶飲料水やプラスチック飲料水を買う人はほとんどいません。彼らはそれらがゴミになることを意識して買わないのです。買い物の際でも誰もが布の買い物袋を携帯

していて、ない場合は20円くらいを出して買わなければなりません。またほとんどのものが簡易包装で、日本の気遣いにあふれた過剰包装からでるゴミを考えると、日本は何と無駄なゴミを多く出しているのかと驚かされました。最近日本でも普及されつつあるようですが、ドイツではゴミの分別が徹底されています。そしてゴミを出すのに一人あたり年間何万円というゴミ税を払わなければなりません。日本でもこのようなシステムを導入するとゴミが減るかもしれません。しかしドイツでは、人々に徹底的な環境保護意識が浸透しているので、お金がどうこうというよりも環境を守ろうということからすべて行われているようです。まだまだたくさん驚いたことがありましたが、そのような環境で11ヶ月間過ごした私は、いつの間にか環境について考えるようになり、環境を守るために自分にできることを精一杯努めるようになりました。環境保護活動に取り組むためには、みんなで取り組める環境作りが求められ、そのために学校や家庭における環境教育や、地域全体の協力が必要だと思います。どのような環境教育が今の日本で展開されるべきか、ドイツで学んだことを参考に、考えていきたいと思っています。



留学生と冬の火祭り

留学生相談室 山ノ下 久美子

12月22日、富山駅北地域で開かれた仮装パレード・パフォーマンスに「富山大学留学生チーム」として一緒に参加しました。大学を出る頃、愉快的仲間（マレーシア・台湾・韓国・タイ・中国）九人は、張り切り歌さえ歌っていましたが集合場所の体育館に入るなり、他チームの豪華衣装と電球を使った小道具にびっくりし「もういいから早く帰ろう」「今のうちにやめよう」と言い出し、私を困らせた。

出場を決めた時、全員に私が言ったことがある「途中でやめると言わない」「練習に関してケンカしない」この二つであったのに。確かに、私も逃げ出したかった。

でも、プラカードを持ってくれたガールスカウトのかわいい小学生に引かれるように、パレード・パフォーマンス大会へと進んでいった。

大型スクリーンは、他チームの豪華絢爛な衣装を映し出し、活気あふれるパフォーマンスをより一層引き立てていたが、私達は、惨めさだけを感じて雨の中にたたずんでいた。夢中でパフォーマンスを終え逃げるように走っている時、相本アナの声「今のよかったね。中沖豊に聞かせたかったね」の、ほめ言葉に皆に笑顔が戻った。

結果は特別賞に終わり残念でしたが、「来年もまた参加して下さい」の審査員の声援に失敗を繰り返しながらも心ひとつになれた12日間を思い出した。

お金のない悲しさから宿直廃止で不要になったシートでマント作成、百円均一での買いあさり打ち合わせは昼の20分、練習は土・日曜の静まり返った大学の玄関、歌詞や曲も手づくりでテープに吹き込んだのである。

それにしても、最後のパノラマ立体花火ショーに感激し「参加してよかった」「参加しなければここにいなかった」「夏の花火より感動」と大喜びだった。

富山良いとこ 住み良いところ
春はサクラで 冬は雪
どちらも チラチラ 舞い降りて
人の心に 人の心に 灯をともし

富山好いとこ 楽しいところ
春は緑で 冬は白
どちらも 豊かに 恵まれて
夢と希望が 夢と希望が 育つ町

富山ふるさと ステキなところ
春はまつりで 冬は恋
どちらも 心に響くもの
私の富山 私の富山 恋の町



（1月6日(水)付け北日本新聞「女のいこい」に一部掲載）

「留学生チーム」で作ったこの歌のような富山で、彼らと再び冬の花火を見たい。

富山大学陸上競技部

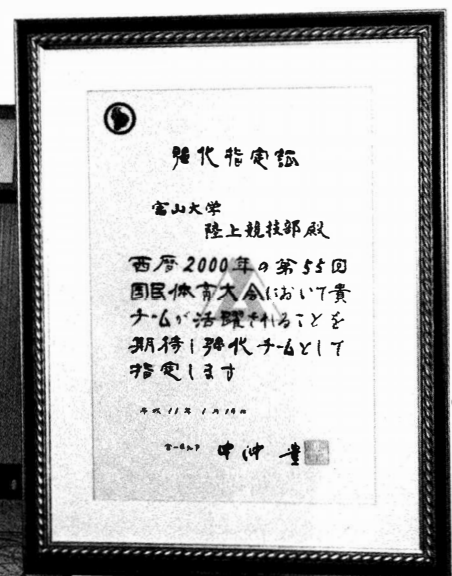
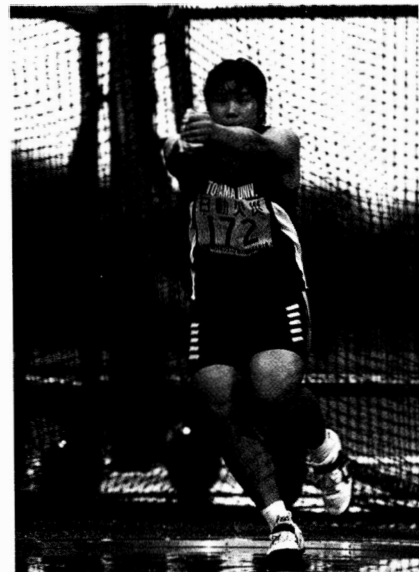
県の強化指定チームに選ばれる

教育学部教授 山地啓司

富山大学陸上競技部は富山県の平成10年度強化指定チームに選ばれ、1月14日に行われた名鉄トヤマホテルでの指定証授与式に時澤学長と陸上競技部顧問の山地教授が出席した。県の強化指定チームの制度は平成4年度に発足し、2000年国体に向け企業・大学等の優秀チーム、選手を抱えるチームに若干の強化運営費を支給することで、今年度新たに選ばれた10チームを加えると64チームが指定されたことになる。本校の陸上競技部では今年度ハンマー投げの金子泰子（教育学部1年）が大活躍した。10月に熊本県で開催された全日本ジュニア選手権で50.93mを投げ、ジュニア日本記録を樹立して優勝。同大会の最優秀選手にも選ばれた。また、この記録はハンマー投げの今年度ランキング第二位である。

これに刺激されたためか、今春には全国大会で

活躍した優秀な選手の入学が予定され、強化指定チームの名にふさわしい活躍が期待されている。



附属図書館新コーナー紹介

附属図書館では、このたび希望図書の受付けと2つのコーナーでのサービスを開始しました。いずれも図書館サービスの充実として取り組んでいるものです。学生の皆さんの活用をお勧めします。

○購入希望図書の申込みについて

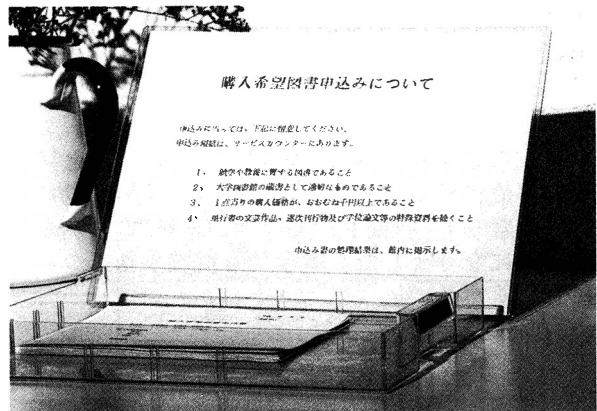
学生用図書の充実の方策として、当館では学生の皆さんから勉学や教養のために購入を希望される図書名を伺っております。本館の1階サービスカウンターにあります申込み用紙に所要事項を記入のうえ、遠慮なく申し込んでください。できうるかぎりご期待に応えたいと思っています。

○学生用新着図書コーナー

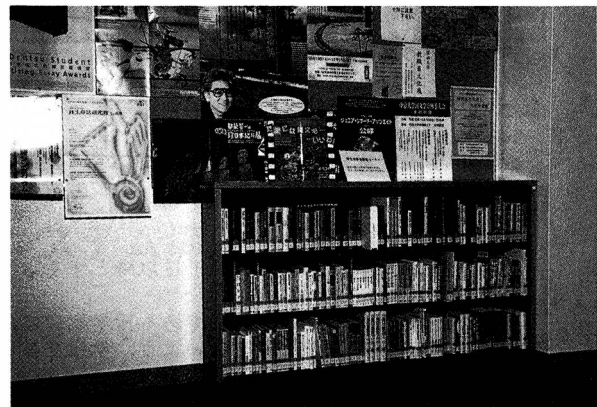
当館では、学生の皆さんに読んでいただきたい学習・教養図書、基本参考図書等の充実に努めていますが、これらの図書を含め購入手続きを済ませたものを配架するまでに1週間程度専用のコーナーを設けて展示しております。展示期間の貸出しは出来ませんが、予約・閲覧は出来ますので、新着図書を手にとって大いに学習意欲をかきたててください。

○本学教官執筆図書コーナー

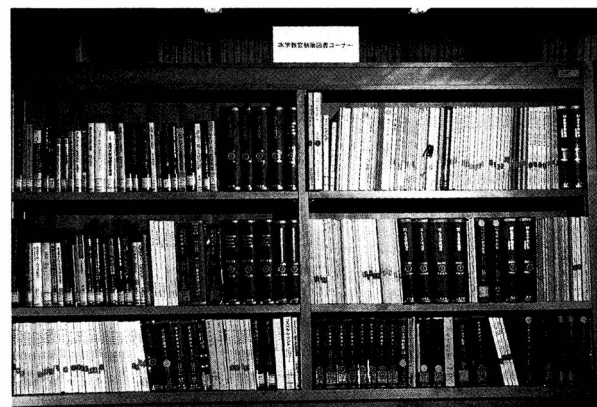
学生の皆さんを始め当館をご利用の方々には本学教官がどのような研究活動等を行っているのか関心を持っておられると思います。そこで本学教官が著した図書等のコーナーを設けております。このコーナーは本学教官の寄贈により成り立っているもので、その意義を十分にご理解いただきたいと思います。



本館1階カウンター



本館1階通路右側 掲示板の側



本館2階通路左側 自由閲覧室本棚

図書館では、学内関係者が執筆した図書資料を収集しております。
出版されました是非、図書館にご寄贈くださるようお願いします。



平成11年度の就職・採用活動

平成9年度から就職協定が廃止されたことにより、就職・採用活動は、早期化、長期化の傾向にあります。平成11年度卒業予定者の就職・採用活動については、大学側及び企業側においてそれぞれ下記のとおり「申合せ」（別紙1）及び「倫理憲章」（別紙2）が定められ、これらについて、双方がそれぞれ尊重することになりました。本学でも就職事務については、原則的にその内容に沿って進めていますので、参考にしてください。

別紙1

平成10年12月2日
就職問題懇談会

平成11年度大学、短期大学及び高等専門学校卒業予定者に係る就職について（申合せ）

大学、短期大学及び高等専門学校（以下「大学等」という。）は、平成11年度卒業予定者の就職活動の秩序を維持し、正常な学校教育環境を確保するとともに学生の就職機会の均等を期するため、高校卒業予定者の就職活動にも配慮し、下記のとおり申し合わせる。

記

1. 採用情報の開示について
インターネットによる採用情報の公開や通年採用の拡大等に鑑み、求人依頼文書の発送、求人票の受理及び公示の時期は、各大学等の自主的判断によって行う。
2. 企業説明会について
企業が学内で実施する採用選考のための「企業説明会」については、正常な学校教育環境を確保するとともに、就職活動の秩序維持を基本とし、学校教育上重要な時期である卒業学年当初及びそれ以前は会場提供を行わない。
3. 学校推薦の取扱いについて
学校推薦は、原則として7月1日以降とする。
4. 正式内定開始について
正式内定日は、10月1日以降である旨学生に徹底するとともに、正式内定に至るまでの間において、複数の事実上の内定の状態が継続しないよう、学生を指導する。
5. 学生の応募書類について
学生の応募書類は、「大学等指定書類（「履歴書・写真・自己紹介書」、「成績証明書《卒業見込証明書を含む》」、「健康診断書」）」とし、企業に対して、就職差別につながる恐れのある「会社指定書類」、「戸籍謄（抄）本」、「住民票」の提出を求めないよう要請する。
6. 男女雇用機会均等について
採用活動は、改正男女雇用機会均等法及びその指針の趣旨に沿って行われるべきであり、その旨を企業側に徹底するよう要請する。

別紙2

平成10年12月

平成11年度 新規卒卒者の採用・選考に関する企業の倫理憲章

日本経営者団体連盟
会長 根本二郎

企業は、自己責任原則に基づいて自主的に行う、平成11年度大学等新卒者の採用・選考にあたり、下記の点を十分配慮して行動する。

記

1. 情報の早期公開
学生の就職機会の均等を期するため、企業情報ならびに採用情報（採用人数、説明会日程、選考期日・場所等）については、可能な範囲で早期に、適切な方法により詳細に公開する。
2. 採用内定開始日
正式内定日は、10月1日以降とする。
3. 公平公正な採用の推進
公平・公正で透明な採用の推進に努め、学生の自由な就職活動を妨げる拘束や、男女雇用機会均等法に反する採用活動は行わない。
4. 学事日程の尊重
採用活動にあたっては、大学側の学事日程を尊重し、学生が学業に専念でき、より教育効果が上がるような教育環境の確保に努める。

平成10年度前期・後期授業料免除実施状況

平成10年度の前期及び後期授業料免除者が次のとおり決定しました。

なお、授業料及び奨学金を希望するうえで、たずねたいことがあれば、厚生課又は各学部の学務係（経済学部は学生係）へ相談してください。

授業料免除実施状況

区 分		前 期			後 期		
		学 部	大学院	計	学 部	大学院	計
出 願 者		4 3 4	1 1 2	5 4 6	3 8 9	9 7	4 8 6
免 除 者	全額免除	3 0 4	7 6	3 8 0	2 8 8	7 2	3 6 0
	半額免除	7 7	1 5	9 2	7 2	1 4	8 6
不 許 可 者		5 3	2 1	7 4	2 9	1 1	4 0

証明書自動発行システム導入

平成11年度から各種証明書の発行を自動化するため「証明書自動発行機」を導入することになり、現在準備を進めております。

稼働開始日は別途掲示等でお知らせしますが、それまでは今までどおり各学部担当窓口で交付を受けてください。

【証明書自動発行のあらまし】

★ 発行できる証明書の種類

①在学証明書 ②卒業・修了見込証明書 ③J R学割証

★ 対象学生

学部生，大学院生

★ 設置場所

- 附属図書館1階ラセン階段横
- 工学部学務係横ホール

留学生センター・留学生課新設

富山大学では、国の留学生10万人受入れの施策が進行している中で、本学に在学する留学生数も、年々増加し平成元年度28人であったものが、平成10年11月1日現在では13カ国209人となり約7倍増加してきました。今後も増加することが予想される事から国に留学生センター・留学生課の設置をかねてから要望していたところ平成11年度に実現することになりました。

これに伴い学生課・留学生指導相談室において、従来、留学生関係業務を実施して来ましたが、今後は留学生センター・留学生課が担当することになりました。

留学生センター・留学生課についての概要はつぎのとおりです。

I. 留学生センターにおいては、前述の目的を達成するため次の業務を行います。

(1) 大学院入学前予備教育

- ① 大学院入学前の国費研究留学生等の日本語予備教育
- ② 日本語予備教育のあり方に関する調査研究
- ③ 日本語予備教育の入学後における教育効果に関する追跡調査
- ④ 全留学生を対象とした日本語の課外補講

(2) 日本語・日本事情教育

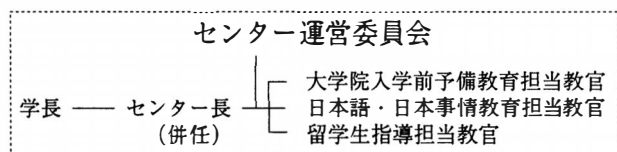
- ① 全留学生を対象とした日本語・日本事情教育
- ② 日本語教育のあり方に関する研究
- ③ 日本語・日本事情に関する専門的研究
- ④ 全留学生を対象とした日本語の課外補講

(3) 留学生指導

- ① 修学上、生活上の諸問題に関する指導
- ② 異文化適応に関する指導・助言
- ③ 健康上の相談に関する指導・助言
- ④ オリエンテーションの企画・実施
- ⑤ 留学生専門教育教官との連絡・調整

- ⑥ チューターに対する指導・助言
- ⑦ 海外留学希望者への指導・助言
- ⑧ 地域における国際交流の推進及び留学生支援団体との連携
- ⑨ 各種情報提供

また、これを実施する組織は、次のとおりです。



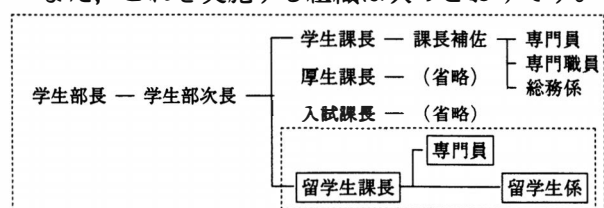
具体的なスタッフは、次のとおりです。

区 分	教 授	助教授	計
大学院入学前予備教育担当教官	人	1人	1人
日本語・日本事情担当教官	1	1	2
留学生指導担当教官	1		1
計	2	2	4

II. 留学生課においては、前述の目的を達成するため次の業務を行います。

- ① 外国人留学生の受入れに関する事。
- ② 留学志願者等に係る情報提供に関する事。
- ③ 留学生の経済援助等に関する事。
- ④ 帰国学生のアフターケアに関する事。
- ⑤ 学生の海外留学に関する事。
- ⑥ 外国人留学生に係る各種行事に関する事。
- ⑦ 富山県留学生等交流推進会議に関する事。
- ⑧ センターの管理運営に関する事。
- ⑨ センター委員会に関する事。
- ⑩ センターの諸行事に関する事。
- ⑪ センターの広報に関する事。
- ⑫ 日本語教育に関する事。
- ⑬ 所掌事務の調査及び報告に関する事。
- ⑭ その他センターに関する事。
- ⑮ その他外国人留学生に関する事。
- ⑯ 所掌事務に係る調査及び報告に関する事。

また、これを実施する組織は次のとおりです。



保健管理センターだより

本当に大切なものは

保健管理センター所長 中 村 剛

大正から昭和初期につかわれた文部省国定教科書『尋常小学国語読本巻十一』には、「鉄眼の一切経」という文章が掲載されています。この小話は、簡潔で明快な内容といい、文の勢いといい、非常な名文で、手を加えるのがはばかられますので、あえて原文のまま紹介したいと思います（仮名表記法は現行の用法）。なお、鉄眼道光（1630-1682）は江戸時代の黄檗宗の高僧で、すでにご存じの方も少なくないと思います。

第二十八講 鉄眼の一切経

一切経は仏教に関する書籍を集めたる一大叢書にして、この教えに志ある者の無二の宝として貴ぶところなり。しかもその巻数幾千の多きに上り、これが出版は決して容易の業に非ず。されば古は中国より渡来せるものの、僅かに世に存するのみにて、学者その得がたきに苦しみたりき。

今より二百数十年前、山城宇治の黄檗山萬福寺に、鉄眼という僧ありき。一代の事業として一切経を出版せん事を思い立ち、いかなる困難を忍びても、ちかかってこのくわだてを成就せんと、広く各地をめぐりて資金をつること数年、ようやくにしてこれを整うことを得たり。鉄眼大いに喜び、まさに出版に着手せんとす。たまたま大阪に出水あり。死傷すこぶる多く、家を流し産を失いて、路頭に迷うもの数を知らず。鉄眼この状を目撃して悲しみにたえず。つらつら思うに、「我が一切経の出版を思い立ちしは、仏教を盛んにせんがため、仏教を盛んにせんとするは、ひっきょう人を救わんがためなり。喜捨を受けたるこの金、これを一切経のことに費すも、うえたる人々の救助に用うるも、帰する所は一にして二にあらず。一切経を世にひろむるはもとより必要なことなれども、人の死を救うは、更に必要なるに非ずや」と。すなわち喜捨せる人々にその志を告げて同意を得、資金をことごとく救助の用に当てたりき。

苦心に苦心をかさねて集めたる出版費は、

遂に一銭も残らずなりぬ。しかれども鉄眼少しも屈せず、再び募集に着手して努力すること数年、効果空しからずして、宿志の果さるるも近きにあらんとす。鉄眼の喜び知るべきなり。

しかるにこのたびは、近畿地方に大飢饉起り、人々の困苦は出水の比に非ず。幕府は処々に救小屋を設けて、救助に力を用うれども、人々の苦しみは日々にまさりゆくばかりなり。鉄眼ここにおいて再び意を決し、喜捨せる人々に説きて出版の事業を中止し、その資金を以て力の及ぶ限り、広く人々を救い、又もや一銭も留めざると至れり。

二度資を集めて二度散じたる鉄眼は、終に奮って第三回の募金に着手せり。鉄眼の深大なる慈悲心と、あくまで初一念をひるがえさざる熱心とは、強く人々を感動せしめしにや、喜んで寄付するもの意外に多く、この度は製版・印刷の業着々として進みたり。かくて鉄眼がこの大事業を思い立ちしより十七年、即ち天和元年に至りて、一切経六千九百五十六巻の大出版は遂に完成せられたり。これ世に鉄眼版と称せらるるものにして、一切経の広く我が国に行わるるは、実にこの時よりの事なりとす。この版本は今も萬福寺に保存せられ、三棟百五十坪の倉庫に満ちみちたり。

福田行誠（幕末から明治にかけての浄土宗の高僧）かって鉄眼の事業を感嘆していわく、「鉄眼は一生に三度一切経を刊行せり」と。

餓死をまぬがれたものは1万人にものほり、人々は鉄眼を「救世の大士」と呼びました。彼は五十三年という、今の感覚では、けっして長いとはいえない生涯を、大阪の瑞龍寺で閉じました。このとき葬送に参列するもの10万人、その号泣する声は山野にみちたといわれています。

驚くべきことに、鉄眼の一切経の版本五万六千二百二十九枚は、黄檗山塔頭宝蔵院に今なお完全に保存されているというのですが、同時に、鉄眼のこの偉業は、こんにちの社会に無限の教訓をつ

きつけています。彼が一切経の出版を思い立ったのは、仏教を盛んにしようと考えたからで、せんじつめれば人を救うためでありました。「喜捨を受けた金は、一切経を世にひろめるのに必要ではあっても、眼前で、瀕死の危機にさらされている多くの人々を救うことのほうが、いっそう大切なことではないか」。鉄眼はいま何が大切か、何が求められているかを正確に洞察していました。

天災や飢饉にさいしてとった鉄眼の行為は、一見、喜捨を受けた人々への裏切りのように思われますが、彼の慈悲心と初志を貫こうとする姿勢は、かえって人々を感動させました。一日一日をかうじて口に糊して過ごしている庶民が喜んで喜捨に応じたのは、私利を考慮せず、しかも行為の結果責任をしっかりと自己に帰すという鉄眼の態度の潔さに胸を打たれたからにほかなりません。

その点、「豊かな社会」を自負する、この国の現在の精神的弛緩は目に余るものがあります。4年前の阪神大震災にさいして、被災直後からあいついだ海外諸国の救援の申し出の多くが、たなざらしにされたり、断られたりしました。災害救助犬は防疫を楯に救助活動を阻まれ、ロス地震での救助経験をもつ医師と看護婦19人のチームは、日本のお役所仕事との闘いに時間を空費しました。また、空輸された外国製の薬品が、当局の使用許可がおりないので邪魔なごみの山になってしまったのです。その間にも6,000数百人が圧死したり、生きながら火災の犠牲になったりしました。

眼前に山積みされている医薬品があってそれを使用すれば患者が助かるかもしれないとき、それがたとえ国内では未承認のものであっても救急の目的で使用することに異議を唱える人はいないのではないのでしょうか。しかし、誰もが正しいと信じた、そのことを自己責任のリスクにおいて実行に移す勇気がなく、皆が無関心を決め込みました。「無関心は人道の敵」（赤十字国際委員会）というのは、こんな事態に向けられた言葉でしょう。

ところで、もしそのようなリスクをおかした人がいたとします。そんな場合、本当に事後に責任を追及されるのでしょうか。一見、融通がきかないように思われがちな法規にも、どこかに救済の道が開かれているはずです。この例では、他人の生命・身体という法益に対する現在の危難が存

在し、その危難を避けるためにやむなく行おうとする行為で、その避難行為によって得られる利益が避難行為をしないでおく損失に比べてきわめて大きいわけです。したがって、緊急避難の要件が満たされ、現実の社会においても、事後におとがめはないと思われます。良心に従って正しいと確信をもてる行為をするのに、躊躇する必要はありません。記憶の断片にちらつく規則の幽霊に脅かされるよりも、各自の信念にもとづく行為のほうがはるかに理に適っており、結果的に人々の共感を得るもののようです。

近頃、元教授某氏にかかわる科研費や実験廃液の不適切な取扱、セクハラなどといった不正行為が問題になりました。この間、保健管理センターは被害をうけた学生の相談に応じ、できるだけ公正な第三者機関としてふるまうようにつとめました。ところがどうでしょう。学生ばかりでなく、保健管理センターに対しても嫌がらせや脅迫がなされました。相談することも、それに応ずることも妨害しようというのです。また、当該学部の教授会が承認したこの一件の「顛末報告書」の内容が、ほしいまゝに改変されたうえで大学管理機関（評議会）へ提出されました。このような違法行為は、行為の主体者の意図に反して、それ自体、某氏の不正行為が深く広いものであると告白する結果になりました。大学管理機関に虚偽公文書が提出されるに至っては、先人が勝ち取った「大学の自治」ひいては「学問の自由」という崇高な権利を自らの手で放棄することを公言するもので、すべての大学人に対する背信行為というべきものです。少なくとも、真理の探究に真摯な努力を傾注している大学人にとっては、これ以上に深刻な事態はありません。しかし、ここでも多くの人達が無関心をよそおいました。「無関心は人道の敵であると同時に、学問の敵」でもあります。本当に大切なものをどう守ったらいいのか、われわれは鉄眼の智慧に学ぶ必要がありそうです。

ところで、たいへん珍しい現象ですが、最近、教職員の相談が急にふえてきました。その来談者たちは異口同音に「保健管理センターは信用できる。嫌がらせや脅迫に対して一歩も後退しないから」と言われます。手前味噌のようですが、これは本当の話です。

キャンパスウォッチング

人文学部新校舎紹介

人文学部・理学部事務長 中田 孜



石碑

人文学部校舎の新営は、五福団地施設長期計画の一環として、老朽、狹隘状況の解消と教育研究活動のより一層の発展を目指して整備されたもので、昭和63年11月15日に第一期として建てられた語学文学棟の南側に延びる形で、平成10年9月10日に第二期として講義棟及び研究棟が増築されたものである。

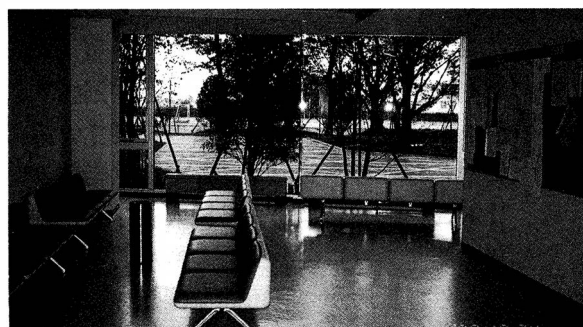
人文学部はこの度の第二期の校舎新営により、メインストリート正面に位置する附属図書館東側に隣接した静閑な緑地区域に統合され10年ぶりに二極分散状態が解消されることになり、教育研究面ばかりでなく学部運営上も極めて望ましい状態になった。なお、第二期の建物は延床面積が5,633.74㎡で鉄骨鉄筋コンクリート造りの地上30.35mの7階建である。

第二期の増築は、第一期の既設建物との間に扇形の講義棟を配置し2、3、4階を渡り廊下でつなぐ等、第一期の研究棟と第二期の増築部分が極自然に融合したものとなっている。融合の極め付けは何と言っても玄関フロアで、増築された正面玄関が既設の玄関スペースを取り込み目一杯開放された空間を作り出し、かつ学生のリフレッシュスペースであるラウンジに繋がったことにより、第一期の既設玄関に押し込められていた陶壁画（丹羽洋介教育学部教授制作）の“思索の森”を人文

学部の顔として見事に蘇らせたことである。また、このほかにも、玄関フロアの床パネルや巨大板ガラスの多用等、使う側の気持ちを汲んだ造り手のさりげない心遣いが随所に感じられる建物である。

なお、第二期の増築に係る主な施設・設備等を以下に紹介することにする。

○講義棟の1階から3階には、学生のリフレッシュスペースとして採光とくつろぎに配慮した53㎡のラウンジ（オープンスペース）が設けられ幅広いソフトベンチが置かれており、学生の利用は高く極めて好評である。

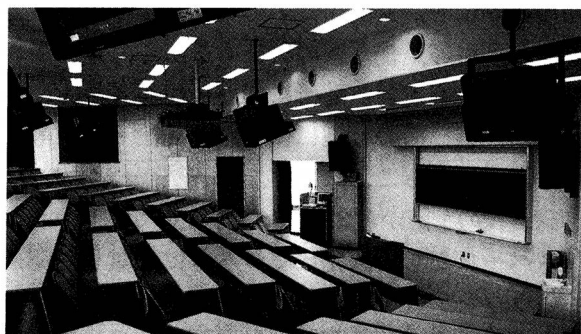


ラウンジ（リフレッシュスペース）1～3F

このスペースは、講義棟と研究棟の繋ぎ廊下のスペースや吹き抜け螺旋風階段のスペースを最大限生かす等の工夫がされており、シンプルではあるが、ゆったりとした明るく親しみやす

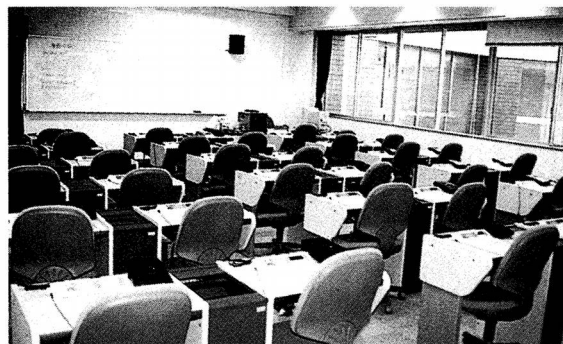
い落ち着いた感じに造られている。

- 1階には、学務係事務室や耐火式書類保管室等の管理部門室と、52台の端末機を備えた情報処理教育室（CL教室）、学生の多様なニーズに対応し得るように45㎡の留学生控室をはじめ、23㎡の学生相談室、就職資料室及び学生専用の印刷室等が置かれているほか、90名収容の教室2室も置かれている。
- 2階には、学部長室、事務長室、庶務係事務室、職員専用印刷室、教官談話室及び小会議室等の管理部門室が置かれているほか、160名と70名収容の教室が各1室置かれている。
- 3階には、10の研究室と38㎡の実験室と演習室各1室のほか、最新鋭のAV装置を備えた222人収容の階段式大講義室と、70名収容の教室各1室が置かれている。なお、この階段式大講義室には、200インチの巨大電動スクリーン、29インチの8台のモニターTV及び電動暗幕が整備されている等、最新の視聴覚教材をフルに活用した多目的な利用が可能である。



階段式大講義室（222人収容）

- 4階には、11の研究室と38㎡の実験室2室と30㎡の端末・実験室1室のほか、学生各個人が自分の進度や力量に応じて教材の内容が選択できる機能をもった最新鋭の語学演習視聴覚装置40台を備えたLL教室が置かれている。当該装置は、日本人学生の外国語や外国人留学生の日本語の語学能力、特に会話能力の飛躍的なアップにつながる理想的かつ実用的な機能を備えた優れたもので、その効果はおおいに期待できる。
- 5～7階には、9又は10の研究室と38㎡と30㎡の実験室や演習室が各階に2室程度置かれているほか、階によっては23㎡の実験室を置いているところもある。
- 第一期及び第二期にわたる校舎の増改築に併せ



LL教室（40人収容）

て環境整備も行われた。

まず、正面玄関前に、10数台分の学外者専用駐車スペースを確保することによってかなりゆったりとした開放的な空間が創出されたほか、その一角に同窓会から寄贈された青柳志郎氏の揮毫による『石標』が、旧校舎前から移植されたイチイの老木をバックに建てられる等、7階建の新校舎のグレイのタイル壁と相俟って正面玄関前一带の雰囲気落ち着いたものとしている。

更に、正面玄関の裏にあたる、メインストリートのユリの木通りから附属図書館東側に隣接する緑地区域には、新校舎に抜けるゆったりとした本学唯一のカラー舗装の遊歩道が約60mにわたり設けられる等、キャンパスらしい環境整備は申し分のないものであり、この春にはベンチを数基設置する等一層の整備を図る予定であるので、人文学部の学生だけでなく全学の学生の憩いの場として、四季を通しておおいに活用されることが期待できる。また、当該遊歩道脇には、人文学部の前身である旧制富山高等学校の開学記念碑やヘルン文庫の生みの親ともいえる南日恒太郎同高等学校初代校長の胸像が旧校舎前から移設される等、人文学部にふさわしい歴史と伝統を偲ばせる空間をも創出している。



思索（ヘルン）の森

国際交流会館紹介

学生部学生課留学生係長

大崎 秀雄

富山大学では、近年多数の外国人留学生及び外国人研究者等の受入れを積極的に推進しており、平成10年11月1日時点では外国人留学生が209名及び外国人研究者が在籍しています。また、今後海外の大学との学術交流の拡大や、環日本海地域との交流の促進等により現在よりさらに多くの外国人留学生及び研究者との交流が見込まれることから平成10年度予算で外国人留学生及び外国人研究者等の宿泊施設として国際交流会館の建設が認められました。

これまでは外国人留学生及び外国人研究者等の受入れにあたり、習慣の違いや、保証人が確保できないことから宿舍の確保は困難で、関係者が非情に苦勞しておりました。

このため外国人留学生及び外国人研究者等の受入れにあたって最重要課題として宿舍問題の解消をもとめる声が多く寄せられ1日も早い国際交流会館の建設が望まれ、毎年文部省に要望して来ていました。

この度平成10年度予算で建設が認められ、本学から2km南の富山市金屋地区に平成10年7月1日に着工し、平成11年3月10日に竣工予定で建設されています。

現在の工事進捗状況は順調で予定通り竣工する見込みです。

工事の概要を示すと次のとおりです。

建物構造	鉄筋コンクリート（RC）
敷地面積	3,000m ²
建物床面積	692m ²
延建物床面積	1,561m ²
設置場所	富山市金屋神田5,037-2

収容定員

区分	単身用	夫婦用	家族用	計
留学生用	34	5	1	40
研究者用	5	2	2	9
計	39	7	3	49

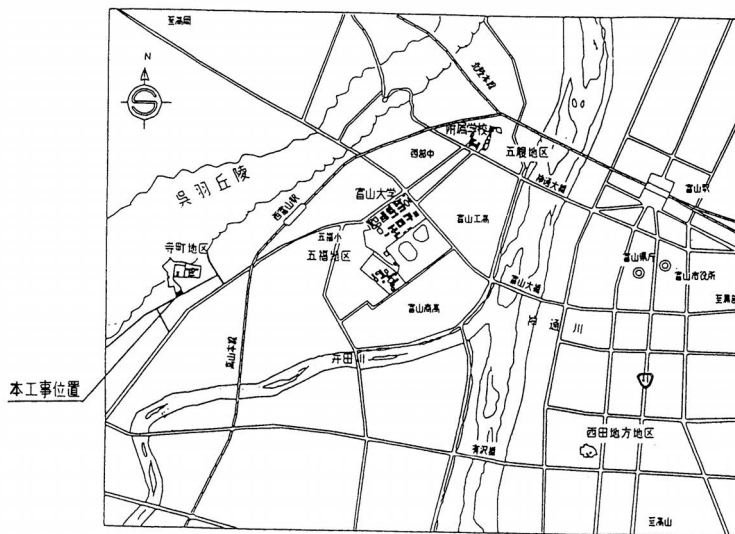
この国際交流会館の特色について説明すると次の点が上げられます。

- (1) 北陸の湿った気候を配慮し、日当たりに配慮した間取りになっていること。
- (2) 近くに呉羽山があり環境風致地区に指定され閑静で勉学・生活条件として優れていること。
- (3) 防災上の利点から、ガスを使用せず調理は電磁調理器、暖房はエアコン等の電気器具にし安全を配慮したこと。
- (4) 各室には、ユニットバス、シャワー、トイレを具備し、生活環境の充実が図られていること。
- (5) 会館内に多目的ホールがあり地域と留学生等が交流する場所も併設されていること。

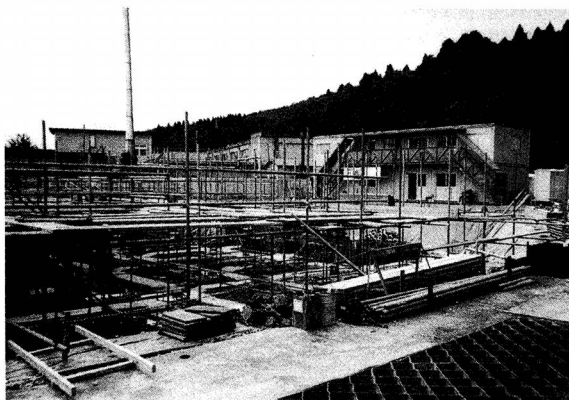
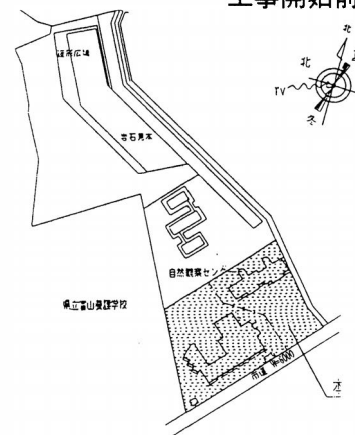
このほか、中庭や周囲には樹木が植えられる外、隣接地には本学の自然観察実習センターもあり自然の潤いがある施設となる予定です。

今後、本学に学ぶ多くの留学生と、日本人学生・教職員が日常的に接する機会をもち相互の関わりを強め相互理解することが望まれており、本施設が大いに機能し国際交流が促進されることが期待されています。

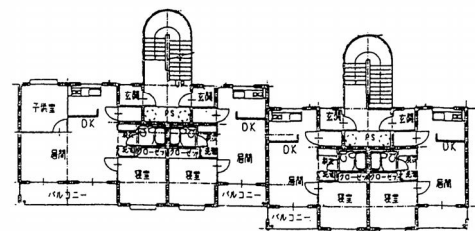
富山大学国際交流会館



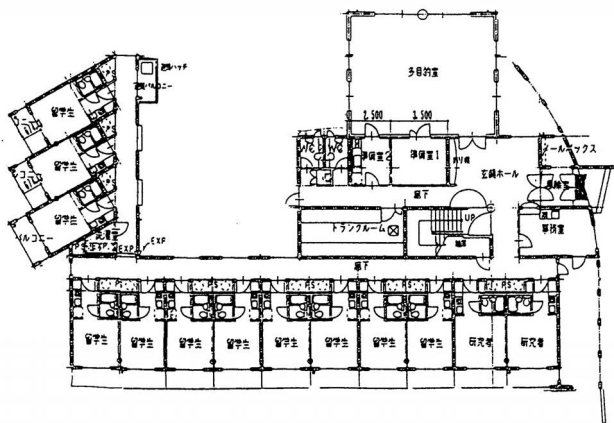
工事開始前の建設予定地



基礎工事の頃の建設現場



基本図 平面図



外観ができあがった頃の建設現場

表紙の作者の紹介



六田は今、卒業制作の追いこみという時期でして

表紙の仕事はちょっとしんどかったデス。

しかし前回と比べ制作時間が半分以下で

済んだのには驚きました。

「継続は力なり」←なんでも続けてやれば

よりよくなるものですね。

◆◆◆◆◆ 学園ニュース編集委員 ◆◆◆◆◆

学生部長	能登谷 久 公
人文学部	高 安 和 子
〃	中 村 靖 子
教育学部	呉 羽 長
〃	樋 野 幸 男

経済学部	小 島 満
〃	丹 羽 功
理 学 部	石 川 義 和 (コーディネータ)
〃	川 田 邦 夫 (コーディネータ)
工 学 部	佐 貫 須美子
〃	山 崎 登志成

